

母と妻をやめるとき

2

唄飛鳥



アシオナ
NEXT



おはよう



おはよう

ママも
おはよう



まだ染み付いて
忘れられない…

一晩経ったのに



おおはよう
璃子

まだ身体に
残っている
違和感



私の何かが
変わった
違和感…

その時以上に



まるで夫に初めてを
捧げたあの時の

うん—



由希奈
行ってくるよ

行ってきまーす



彼の

ダウリスのチ○ポ
あの感覚がまだ

焼印みたい
私の中に残っ
ている



気をつけて

ええ二人共

ハタ…



どうしたの
忘れ物でも！



カチャッ



お
おはよう

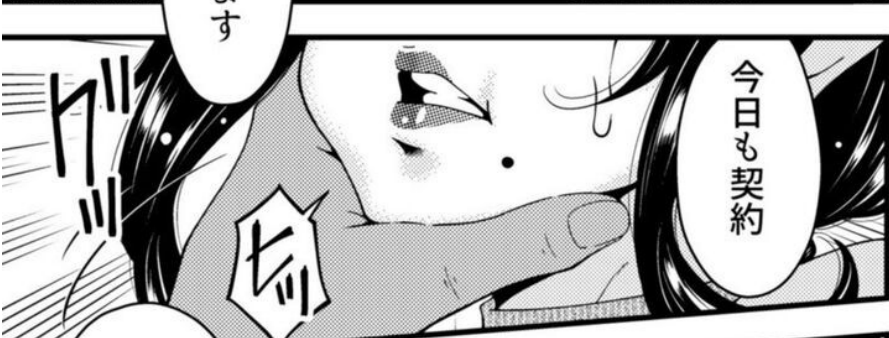
アキ
ござら……ます



おはよう
ございます

ママサン

！



今日も契約

ヒッ



ハジメ
ましようか
ママサン

は……い

ヒッ

どうぞ中に――

オジヤマします

この後もまた
彼に――

何を考えている
ママサン？

そんな…事

待って…なんか
いま…せん

俺とのセックスを
想像していたのか？

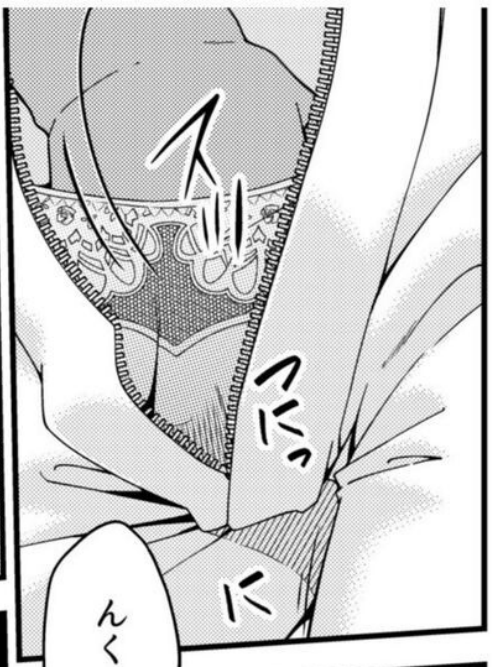
悔しい

こんな男に
見過ごされた
なんて



キス…だけは

それだけは
許して下さい



フック

に

んくっ



OK

彼との行為は
契約だから



ん…



それは娘と夫の為
…仕方ない事

でもキスだけは



待って



それじゃあ

オムムム

ひあっ



あ

ドゥドゥ



んあっ

お



そ...んな

ズンズン

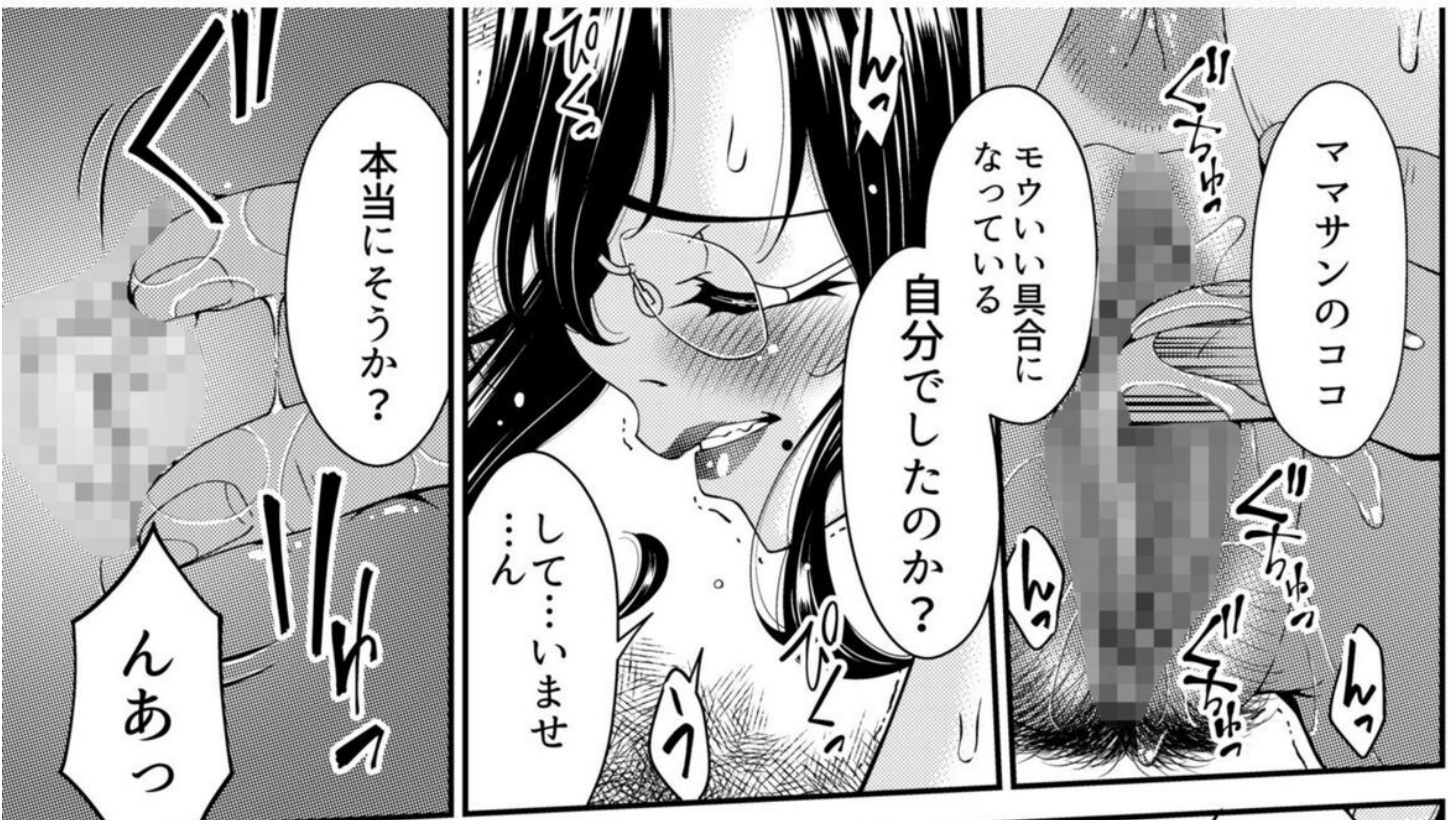


いきな...りい

ズンズン

ズンズン

ズンズン



ママサンのココ

モウいい具合に
なっている

自分でしたのか?

して…いませ
…ん

本当にそうか?

んあつ



それじゃあオレと
セックスするのを
期待してたのか?

ち
違…

期待して
…なんか

ダメえ



また来るう

昨日と同じ
あの感覚が

来ちやうう!



もうイツたのか
オクサン？

アヒツ！



素直でイイネ

それじゃあ



お返事はどう
しましたか？

イイキい
ましたあ！



こっちはどうだ？

ンアツ！



イツた時は
直ぐに報告OK？

は…はい



ダ...ダメえ
...ですう

そんなあ...所お
汚...いいからあ

アヌス
ほじくられるのは
初めてか?

アッ

ンッ

アッ

ンッ

アッ

ンッ

アッ

ンッ

アッ



頭あ
飛んじやう



どうだい
ママサン

感想は?

やめて...下さい

ここんなのお
変...です

ダ...ダメえ



もう



プッシーもまた濡れてきたな

んおっ!



また勝手にイこうとしただろう

ママサン?

ああ

あ



だ…めえ

こんなのお耐えられな

んあっ

ルーン



まったく

オクサンは
本当に
淫乱だな

そんな
イキたいのかー



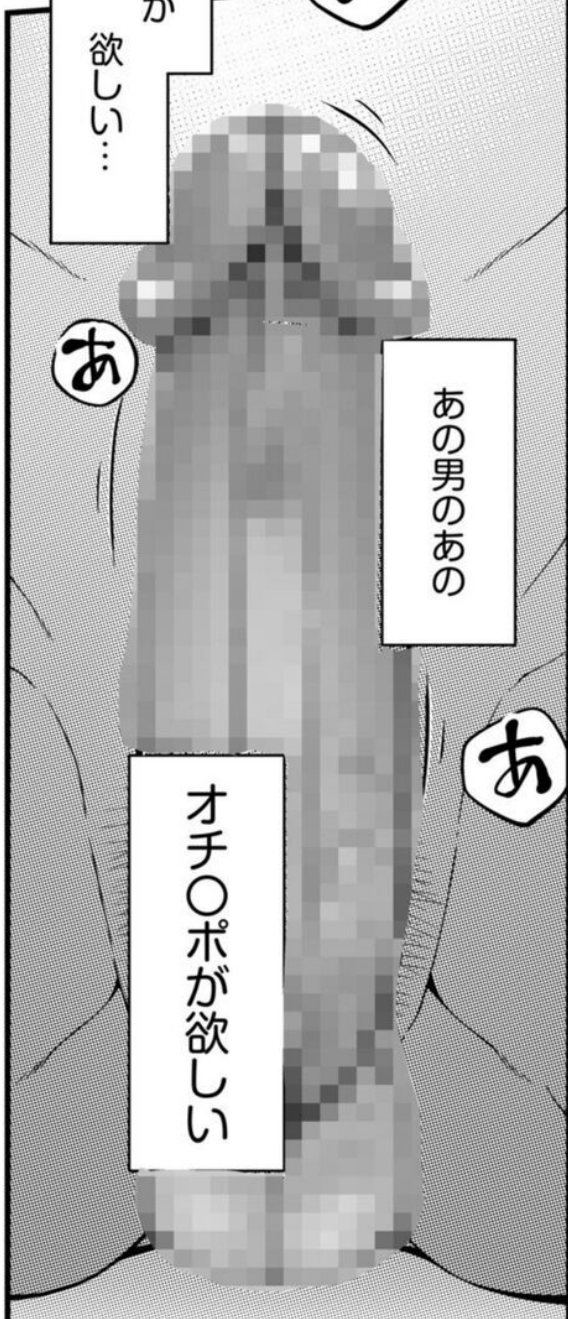
あ

こんな感覚
初めてだった

あ

アレが

欲しい…



あ

あの男のあの

あ

オチ○ポが欲しい



だったら

こいつに跨って
自分で腰を振る
んだな

ギョッ

!



もう少しで
イケそうだった

ああ…あ



しします

のそっ



どうした
そんな顔をして

欲しくないのか？



またあのチ○ポが
入ってしまう

ん

私また
昨日みたいにー



これはー

アナタとの契約
ですから

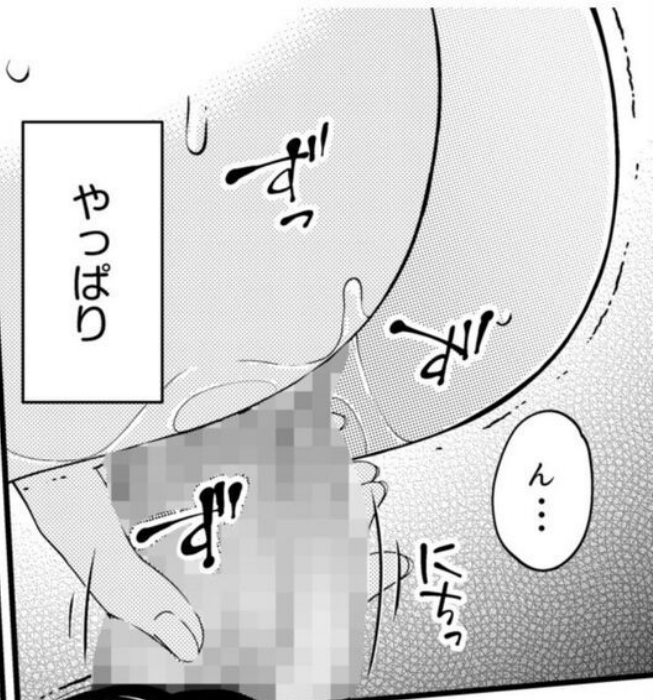
二回



大きい

はあ...あ

あ



せしほり

ん...



太くて

大きすぎて

子宮の
入口に

キスされて



息が

出来ない

あ

あ



コッ...

ダメなヤツ



何をしてる？

んあっ！

入れたのなら
さっさと動け



は...いい



身体が彼のモノに
慣れてきたから？

わからぬ



昨日よりも
もっこ

ダメになっている

わからぬ
けれどー

少し乗って
きたんっじゃ
ないか

ママサン？

腰を止めるな

きちんと俺を
喜ばせろ

は…いい

また：
お尻の穴を





もつと腰を振れ

ンアッ!

彼と繋がって
いる所が

ガッ

ガッ

ハッ

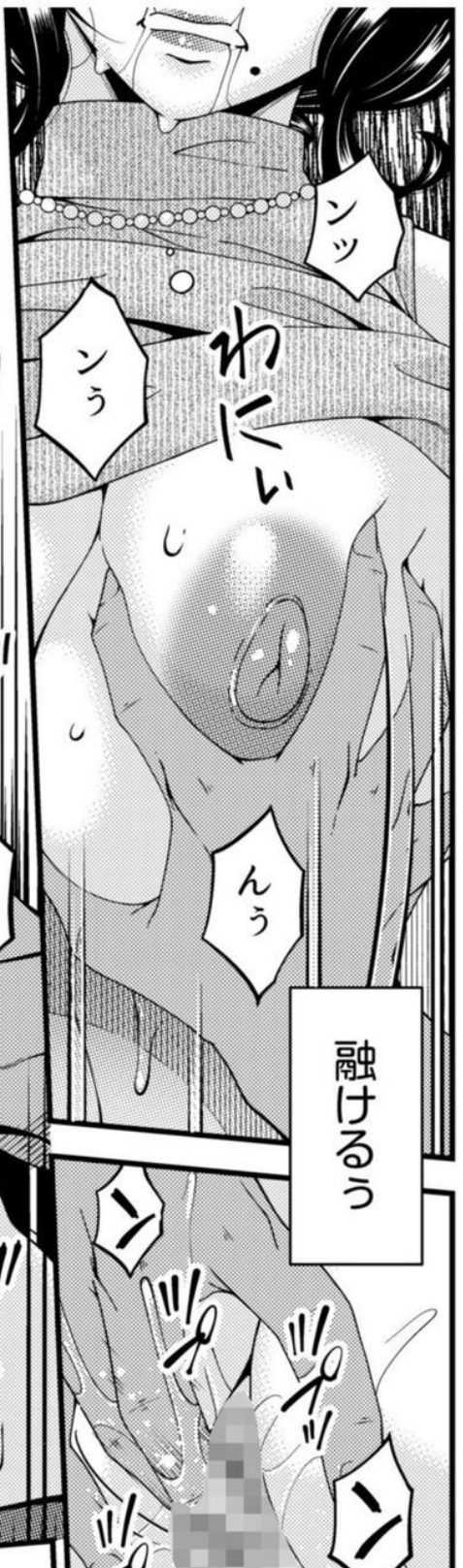
ガッ

アッ

ハッ

ンッ

はひい!



ンッ

ンッ

ハッ

んう

融けるう

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

融けさっさっ



ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

止まらない

腰の
止まらない

来る

来ちゃって

アッ!

アッ!

なにこれえ

今までと違う

気持ちいいのが
昇ってくる





コツチも
イかせて
もらうぞ！

イツたな
それじゃあ

あ

んアツ！



濃くて



熱くて

熱...い



舐めて綺麗にしろ



はい

こんなのもうー…



あ



こんな…
こんなモノが
私の中に

注ぎ込まれて
いたの？

は

は

あ

あ

あぁあぁ



仕方なかった…

とほえ

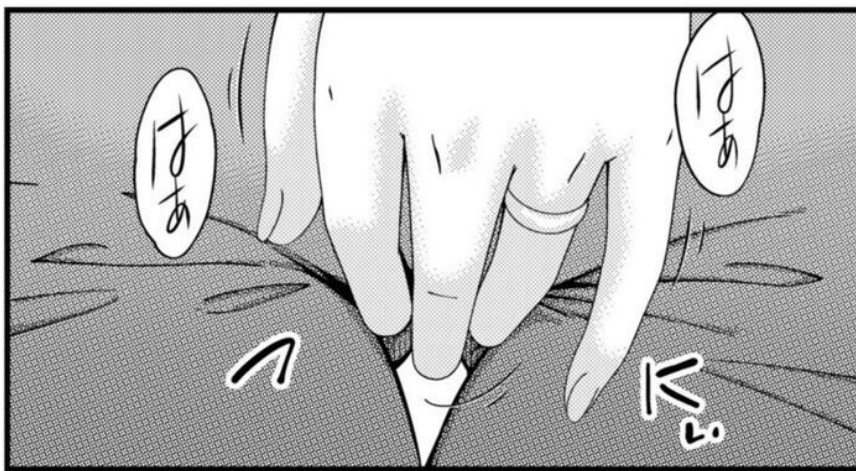
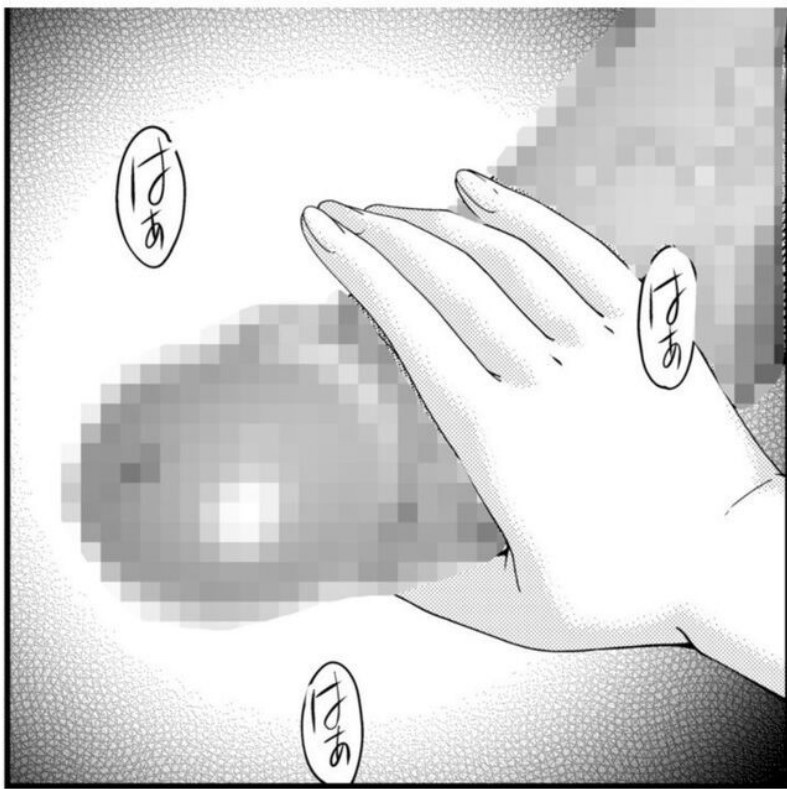
あんなに乱れて
しまうなんて



私の深いところ

消えない烙印を
押されたみたいに

まだ火照ってる



このままじゃ私

ダメに
なってしまう



もう一人欲しく
なっちゃった

なんて♡



ねえあなた



ん？

そのー

久しぶりに
…しない？



ごめん…なさい



そそうね
ごめんなさい

それに子供は一人で
いいって言うてのは
君じゃないか？

ごめん明日
早いんだ





母と妻をやめるとき(2)

著者 唄飛鳥
レーベル アシオナNEXT

- ★この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
 - ★本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。
-